

九州地方会20年の歩み

ソフトボールを覚えていますか……

前原市開業 石 井 香

地方会が発足した当時は、まだ小児歯科専門の開業医が少なかったので、大学の小児歯科が中心に活動していた。第一回目の日本小児歯科学会九州地方会は福岡歯科大小児歯科の担当だった。土曜日が学術講演と研究発表で、日曜日は朝から元気にソフトボール大会を行った。私は、研究発表よりもソフトボール大会に力が入っていたような記憶がある。私は卒業間もない新米医局員だったが、やる気だけは人一倍であった。しかし、ソフトボールに触ったこともなかったし、勿論、ルールも知らなかった。そこで、応援と野次で勝利を勝ち取る作戦をたて、見た目のチームワークの為に揃いの黄色いトレーナーを作って試合に望んだ。そして、めでたく決勝か準決勝まで勝ち進んだと思う。試合の後は体育館で懇親会を行った。今のようなホテルやレストランでの宴会と違い紙コップと紙皿の手作りの小宴だった。懇親会用の梨とリンゴを山のように剥いた記憶がある。その頃の会は、会員も少なかったので、他の大学の先生とも気楽に話せ、和気あいあいとしたものだった。その先生方も、今では立派に活躍されている。そして、何時のころかソフトボール大会が消えたが、地方会は回を重ねる毎に研究発表も充実し、内容の濃いものになってきた。現在は小児歯科専門の開業医も増え地方会のあり方も変わってきたが、会員の気持ちは今も昔も変わってないと思う。

明るい地方会を目指して

福岡歯科大学 成長発達歯学講座
成育小児歯科学分野 尾 崎 正 雄

社会的不況と少子化の影響からか、2、3年前より附属病院の患者が徐々に減少傾向にあります。以前から開業医のみなさんからお聞きしていたことが現実には感じられるようになってきました。現在の社会情勢では、親が子に対する将来の期待と不安感が強く、以前のように大学病院だからといって、学校を早退させたり遅刻させて来院させるケースが極端に減少してきました。1990年頃までは、来院患者の齲蝕歯率が高く、齲蝕処置が強く望まれていました。私は第一回の九州地方会が開催された頃、医局に残って3年目のヒヨコで、小児歯科の臨床を学ぶために毎日のように生切や乳歯冠のセットに追われていた時代が懐かしく思い出されます。現在は齲蝕罹患者が減り、不況から母親はバイトなどの副収入を得ようとする傾向が強く、なかなか予約もとれません。仕事の内容によっては、バイトを1日でも休むと、減給だけではすまされず、リストラの対象となる可能性もあるそうです。このような社会的背景下では、小児歯科へのニーズを増やすためにはどうすればいいのでしょうか？ 私は、今こそ小児歯科の基本に返り堂々と胸を張って社会にアピール出来る仕事をすべきだと考えています。福歯大の小児歯科は一昨年より講座が統合化されて成育小児歯科学分野と名前が変わりました。成育という名前に恥じないよう口腔機能の成長と発達を目指した研究と臨床をしていかなければならないと考えています。20周年を迎え、我々大学人の力が少しでも九州地方会会員の皆様のお役に立ち、大会での交流が更に楽しく、有意義なものになるよう心から祈念いたしております。